

桐生西ロータリークラブ週報

Rotary



2015-16年度RIテーマ

K. R. ラビンドランRI会長

Be a gift to the world 世界へのプレゼントになろう



例会日時 毎週金曜日 12:30 ~ 13:30
 例会場・事務所 桐生市堤町3-5-23 桐生プリオパレス
 Eメール kiryu-nishi@rid2840.jp TEL 0277-22-9155
 URL http://www.rid2840.jp/kiryu-nishi FAX 0277-44-2777
 会長 近藤幸利 幹事 小林恵司 クラブ会報・雑誌担当 霜村年勇
 広報活動委員長 高森 勉 委員 金子福松、小林聡(歴史編集・IT・CICO担当)、服部裕樹

No. 2018

2016年2月19日発行

第2142例会 (2016・2・13) 報告

第2分区A インターシティー・ミーティング (IM) 開催

- 司会：桐生南RC 加藤孝一君
 ガバナー補佐 船山克人君
1. 点 鐘
 2. 国歌斉唱
 3. ローターソング
 4. 来賓の紹介 ガバナー補佐 船山克人君
 5. 開会の挨拶 IM実行委員長 加藤 洋君
 6. 歓迎の言葉 桐生南RC会長 山根 明君
 7. あいさつ ガバナー補佐 船山克人君
 8. あいさつ ガバナー 生方 彰君
 9. 分科会 (テーマ別発表会)
 10. 講 評 ガバナー 生方 彰君
 11. 点 鐘 ガバナー補佐 船山克人君

- 生方ガバナー歓迎会 —
 司会：桐生南RC幹事 高山淳史君
 オープニングショー(桐生第一高校チアリーディング部)
1. 開 会 IM副実行委員長 石関 厚 君
 2. あいさつ ガバナー補佐 船山 克人君
 3. あいさつ ガバナー 生方 彰 君
 4. 乾 杯 桐生赤城RC会長 小暮晴一郎君
 5. アトラクション 『タヒチアンダンス』
 6. 手に手つないで
 7. 閉会挨拶 桐生南RC副会長 鈴木 章弘君



第2分区Aインターシティーミーティング(IM)が、2月13日(土)点鐘午後3時30分、桐生市市民文化会館スカイホールで開催されました。9年間途絶えていた本事業ですが、ガバナー方針により再開してから今回で3回目となります。ホストクラブは、船山克人ガバナー補佐を輩出している桐生南RCさんが務め、ホストクラブは全員登録、他4RCは80%登録、総勢185名となりました。

今回、分科会は2つのテーマ、『奉仕活動の現状と未来』、『ビバ・ロータリアン～ロータリアンとしての想い』が設けられましたが、同一会場で時間を分けて行われました。最後に生方ガバナーから講評を頂きました。

IM終了後、引き続き生方ガバナー歓迎会を開催して、ガバナーを囲んでロータリアン同士の親睦を深めました。



分科会・テーマ別発表会 桐生西RC発表内容

(1)「奉仕活動の現状と未来」

地区補助金委員長 下井田秀一君

我がクラブが取り組んできた国際奉仕活動の概略および現在タイ国チェンマイで進めているグローバル補助金事業の概略をご説明頂きました。



発表者：野村 滋 君

“グローバル補助金、
現地視察での遭遇”
「忘れられていた日本兵の軌跡」

只今、下井田委員長のお話の中にあつたタイ奥地での出来事についてお話し致します。

2015年4月17日深夜、私たち桐生西RCの会員5名は、タイ北西端のミャンマー国境沿いにあるカレン族の住むキアウボン村を目指して出発しました。

バンコクで乗り継ぎ、チェンマイで一泊し、翌朝、車で5時間程掛けて人口1,000人程のキアウボン村に到着したのは、19日正午頃でした。旅の目的は、私達のクラブと交流のあるチェンマイ・ティンタインガムRCの要請で、水道施設が無く水不足と水による病気から村人を守り、きれいな水を供給できる浄化設備を造るプロジェクトの現地視察でした。

このプロジェクトの中心になって奔走しているのは、村長夫人のゾタンシミアさんというインド出身の教育者で、知的で気品のある方でした。

彼女が20年程前にこの村に来たときの村の現状は、口減らしのために生まれてきた子供の間引きをするほど貧困にあえいでいたそうです。彼女はこの村を救いたいとの一念でこの村に永住し、村人(現村長)と結婚し、ロータリーを通じて戸籍の無い少数民族の貧しさを世界に訴え続けているのだそうです。

彼女らが用意してくれた昼食を頂いている時、彼女の夫である村長がさりげなくついでに言いました。

「ここから車で1時間半位の所に、日本人のお墓と遺品があるので、案内するから帰りにでも行って見ないか」と。

「なぜ、カレン族の村に日本人の墓地が・・・」

私は一瞬、体から血の気が引き、言葉を失いました。

話を詳しく聞くと、ビルマ(現ミャンマー)でのインパール作戦に敗北した日本軍兵士がバラバラになってタイを目指して逃げ、それから日本を目指したのだと思われます。

食料も無く、何十何百とも知れない山を越え、やっとたどり着いたキアウボン村の人達は、兵士に食べ物を与え体力を回復させてやったそうです。しかし、力尽きて死んでいく兵士も多くいて、村人達は墓を造り、手厚く葬ってくれたのです。その死者の遺品が大切に保管されているのだそうです。しかも、その事実をしる老婆が一人だけ健在だそうです。

そこで、私たちは彼らに一つの質問をしました。「その後現在に至るまで、生き残った兵士、或いはその家族が、この村を訪れた事がありますか？」と。

彼らの答えは「NGOの日本人が来たことがあるだけです。」との事でした。

その瞬間は「何という不義理な」という思いに駆られましたが、インパール作戦の悲惨さは、私の想像をはるかに超えるものでした。この無謀でずさんな作戦は、一人の司令官が周囲の反対を押し切り決行し、16万人とも言われる戦死者を出し、その殆どが餓死と病死であったと言われています。運よく生き延びた人達も、夢中で逃げた山中の言葉の通じない村の名や位置を覚えている筈などありません。

私達は、お世話になった兵士や亡くなった兵士の家族に成り代わり、お礼を申し上げました。

昼食を終えた私たちは、本来の目的である水道浄化設備の設置場所の視察をし、集まった村人と手を合わせて、プロジェクトの成功を祈りました。

心残りなのは、村には宿泊施設が無く夜の山道は危険すぎる等の理由から、お墓参りが出来なかった事と、遺族への情報を何も持ち帰る事が出来なかった事です。プロジェクトが成功して、再度キアウボン村に行く機会を得た折には、お線香を沢山持ってお墓参りをしてこうと考えています。



タイの少数民族カレン族の住むキアウボン村に浄化設備を造るプロジェクト視察の旅が、思ってもいなかった方向に展開したのは、単なる偶然だったのでしょうか。それとも戦後70年、異国の地に眠り、忘れ去られようとしている兵士達の無言の叫びであったのでしょうか。

(2)「ビバ・ロータリアン～ロータリアンとしての想い」

発表者：青山 豊 君

“桐生西RCに入会して”



桐生西RCに入会して1年と10カ月です。今年度、親睦を担当しています。

趣味は、旅と競馬です。特に今年はJALのマイレージクラブのステイタス会員になることを目標に、ちょこちょこ飛行機に乗っています。

ロータリークラブには、元々、祖父が桐生西RCの会員であつたのでお声が掛かったのがありますが、14～5年前からある先輩に誘われていました。当時は某青年会議所を卒業したばかりで、ゆっくりしたかったのと、家族と仕事にずっと迷惑を掛けていたので、その内にと、お断りをしていううちに12年が過ぎていました。

そんな時、仕事の付き合いがある後輩が「俺もロータリーに入会したので入って下さいよ」と誘われました。クラブを聞くと「桐生西RC」だと。それなら、祖父が居た当時のメンバーも未だ残って居られて、そんな方々と一緒では恐れ多くて、「出来ないよ」と拒んでいたのですが、「活動の中に海外でのプロジェクトがあり、タイやフィリピンにも行けますよ。」と、甘い囁きにのってしまいました。

入会当初は緊張の連続でしたが、皆さんから「青山さんの孫かい？」と、声を掛けて頂き、処々に馴染むことが出来ました。また、私が入ってから一年の間に、多くの若い人たちが入会してきて、クラブの雰囲気も変わった様に感じます。

入会して一年が過ぎようとしていた去年の1月、何時になったら海外の話がでるか、首を長くして待っていたところ、突然やってきました。2月にフィリピン・マンドゥロンとのプロジェクトで、学校に調理室を作り、そのオープニングに行く事になりました。心の中で「やっと来たか」と思いました。いざ、募集が掛かりました。日程が迫っていた為か、事務局から電話があり、「行くの、青山さん一人なんですけど」と、話が違ふ。こんな経験はJCでも数多くありましたが、さすがに1人じゃということで、若いメンバーに声を掛け、結局2人で行く事になりました。後日、また事務局から電話があり、「式典でスピーチをしろ」と。心の中で叫びました。「これが西クラブのやり方か！」と。でも、ここまで来たらやるしかなく、腹をくくりました。

いざ現地視察に行きますと、想像以上に素晴らしい調理設備でビックリしました。式典には、学校関係者・現地のRCのメンバー・地区ガバナーと一緒に協力した香港クローンRCの会長等が出席されました。私は、英語とタカログ語でスピーチをしましたが、半分は伝わってなかったと思います。

時間の都合で詳細はお話し出来ませんが、海外でこれだけの事業が出来て、「ロータリークラブは凄い団体なんだあ」というのが実感です。

当クラブは現在タイ・チェンマイとフィリピン・パラニャケでグローバル補助金事業を行っています。去年8月にフィリピンに現地視察に行ってきました。その事業の開校式が来月3日に予定されていて、それにも参加しようと思っています。誤解しないで頂きたいのですが、決して好きで行くわけではありません。

最後に、現在5RCで女性会員の相互親睦の場がありますが、是非、若手会員にも相互親睦の場があればと思っています。5年10年先を担うであろうメンバーの交流の場があれば、良い事を自分のクラブに持ち帰って活かせるのではないかと思います。

最初は嫌だったロータリークラブですが、色々な所に出る事によって楽しくなってきました。皆さんとにかく出てみましょう！きっと何かが変わります。

《次例会予告》

2月26日(金) 新会員卓話 浦野幸子さん